

令和5年10月29日

美原区長
山田真由美様

美原区政策会議構成員
安野 喜三男

「美原区ビジョン2025」2. 魅力的で訪れたいくなるについて

業務で長らく海外に駐在して ローカルスタッフや現地の人たちにお世話になったこともあり 定年帰国後 独立行政法人である国際交流基金の日本研修プログラムに参加して コロナ禍の中断した3年を除き毎年2名 ホームステイとして 受け入れてきました。

今では オーストラリア、インド、インドネシア、ブルガリア、ラオス、ウクライナ等の 様々な国になっています。

受け入れに際しては 我が家では 普段の生活を体験して貰う意味で 魚屋、八百屋に 買い物に行ったり、一緒に料理したり、家族を囲んで食事しています。食後の団欒時には 相互の家族のこと、学校の仕組み、様子、将来像（夢）等を話題にして過ごします。

最後に日本文化を紹介する意味で 茶道でお茶をたて頂きます。また簡単な作法を教え また自分でもチャレンジしてもらいます。同時に茶道で大切にしてきた『一期一会』『懐石』について 説明しています。

毎回受け入れて驚くのは 最初来た時と 帰る時とは大きく成長していることです。何時も国際交流基金関西交流センターでお別れ会が開催されるのですが 各自が演壇でスピーチを聞くと 本心に頼もしく感じています。

帰国後も 日本での経験、体験を生かして 大学で教員したり 政府機関に勤務したりして 日本のファンとして活躍しています。折に触れて連絡を取り合い また日本に来た時は 訪問してくれます。本当に嬉しいことです。

私たちも 今まであまり身近でなかった国々も関心を持つようになり 相互理解が深まったと考えています。

このような取り組みは 小さな一歩かもしれませんが 反復し継続することで 当初は一人か二人の繋がりから 大学、社会へと展開しています。今まで我々が気づけなかった 異なった視点からの美原区の魅力を再発見することで 海外ばかりでなく日本の人々も訪問したくなることに 少しでも資することを期待しています。

以上